

# Press Release

報道関係各位

2020年8月13日

『Una-』プロジェクト実行委員会

～琉球王朝文化と技術革新によるイノベティブ・アート・パフォーマンス～

## 『Una-』（御庭）プロジェクト

首里城破損瓦等利活用による舞台空間の創造

一般社団法人琉球伝統芸能デザイン研究室、一般社団法人琉球びんがた普及伝承コンソーシアム、株式会社 HPC 沖縄、株式会社技建、株式会社 okicom は、沖縄県立芸術大音楽学部教授・一般社団法人琉球伝統芸能デザイン研究室代表理事山内昌也氏が考案した、「舞台『Una-』（御庭）～HPC と首里城破損瓦による舞台空間の創造～」に賛同し、この度『Una-』プロジェクト実行委員会を発足いたしました。

2019年10月31日に焼失した首里城正殿等を含む多くの文化財が失われ、人々に衝撃と悲しみを与えました。しかし、早期から復元への取り組みが行われ、2026年に正殿が再び甦るとの情報が公表されています。

琉球古典音楽を始めとする、琉球伝統芸能はまさに首里城があったからこそその「芸術」であり、高貴な“うとういむち”（おもてなし）は外交のツールでもありました。儀式等の際は、正殿前の「御庭」（うなー）に舞台を設置し、踊奉行（うどういぶぎょう）たちが上演していました。今回の焼失により「聖地の消滅」ともいえる耐え難い思いが、琉球芸能の演者たちに広まりました。

そのような中、山内教授が、県知事公室特命推進課から発令された「首里城破損瓦等利活用アイデア募集」にヒントを得て、ハイブリッドプレストレストコンクリート(HPC)に破損瓦を配合し、さらには琉球びんがたの図柄を施した「1間×1間」（180cm×180cm）の舞台空間を制作し、その上で琉球古典音楽(歌三線)を演奏するというこれまでにない、アート・パフォーマンスを行うことを考えました。

演奏コンセプトは「奉納」。首里城復興への想いと、歴代国王王妃への敬意を込めて表現します。なお、舞台空間はあらゆる場所に設置することができ、設置した場所が『御庭』化します。そのため今回の取り組みを『Una-』プロジェクトとしたのです。

御庭は、琉球王国時代の政治・経済・文化の中心地であり、首里杜御嶽(すいむいうたき)に隣接する「祈りの場」であるのです。それらは正殿をはじめとする首里城（公園）すべてが、まさに『御願所』（うがんじゅ）であり、神社仏閣的な神聖な場所なのです。

2026年の首里城正殿等復元を目指すとともに、実行委員会では「首里王朝文化の理念」及び「琉球王国時代の風土を甦らせる」を追求することとしました。琉球王朝文化と技術革新によるイノベティブ・アート・パフォーマンスを行うことで、「伝統」と「革新」に迫ります。

なお、『Una-』プロジェクトは、持続可能な開発とし、未来に琉球王朝文化の再構築を発信して参ります。

■オンラインプレスリリース

令和2年8月13日（木）17：00～18：00

（アプリケーション：Zoom／実行委員会からのメールによる招待で参加可能）

- ・プレゼンテーション
- ・質疑応答
- ・個別相談等のお知らせ 等

■瓦受け取り日時

令和2年8月15日（土）10：30 首里城公園内 管理駐車場

（土のう袋：2袋＝瓦約100個）

■『Una-』によるアート・パフォーマンス初披露及び設置場所（予定）

令和2年10月31日（土） 場所：玉陵（那覇市首里金城町1丁目3）

※その後は、県内外、海外でアート・パフォーマンスを予定

■実行委員会詳細

名 称：『Una-』プロジェクト実行委員会

～琉球王朝文化と技術革新によるイノベティブ・アート・パフォーマンス～

発案者：山内 昌也

沖縄県立芸術大学音楽学部 教授

一般社団法人琉球伝統芸能デザイン研究室 代表理事

組 織：一般社団法人琉球伝統芸能デザイン研究室

一般社団法人琉球びんがた普及伝承コンソーシアム

株式会社 HPC 沖縄

株式会社技建

株式会社 okicom

内 容：琉球古典音楽（歌三線）演奏によるアート・パフォーマンス

■問い合わせ先

一般社団法人琉球伝統芸能デザイン研究室 山内昌也

E-mail [masaya.yamauchi@ryu-design.or.jp](mailto:masaya.yamauchi@ryu-design.or.jp) TEL 090-2396-4587

■プロトタイプ（シナベニア）によるアート・パフォーマンス（参考資料）

（2020年2月6日 玉陵）

